

## \* 慶應義塾図書館蔵 『梅尾明恵上人傳上』 解題と翻刻

\* 平野多恵

『明恵上人伝記』の写本は数多く存在するが(注1)、本稿では、そのなかで最も古態を保つと見られる慶應義塾図書館蔵『梅尾明恵上人傳上』(以下、慶應貞治本と略称する)を翻刻・紹介する。書誌情報と特徴は以下の通りである。

『梅尾明恵上人傳上』慶應義塾図書館蔵。上巻のみ一冊。四十七丁。縦二四、〇×横一六、三cm。一面九行、一行約二十字。漢字片仮名交じり文。外題「梅尾明恵上人傳上」、内題「梅尾明恵上人傳上」。外題下に「杜崗」と墨書。四十七丁表の本文末に朱古印と「達子」の墨書がある。阿部隆一氏の解題(注2)では、室町ごろの所有者の署名とする。後表紙見返に「貞治三年<sup>甲申</sup>林鐘上旬<sup>書寫之杜崗</sup>」という奥書を持ち、貞治三年(一三六四)の書写と知られる。

本写本は上巻のみで、明恵の出自と誕生を語る冒頭の記事(版本巻上6丁表。以下、巻上下・丁数・表裏で示す。寛文五年版本を底本とする岩波文庫『明恵上人集』(注3)では105頁に所収。以下、岩波頁数で示す)から、練若台に住むこと三年で頭痛の患いにより石水院に移ったという記事(上27表・岩波141頁)までを中心に収めるが、諸写本の上巻と比べて収録説話数が少なく、詞章も簡略な傾向にある。

記事の出入り順序においても、版本や版本に近い系統の諸写本と異なる部分が多い。行法中に虫や鳥の危険を察知した記事(上6裏・

岩波111頁)、権者という評判に反論した記事(上7表裏・岩波112頁)、苜磨嶋へ書状を遣わした記事(上15表・岩波120頁)、及び末世の衆生が仏法の本意を忘れていたことを嘆く記事から文覚による明恵評の記事(上18表・20表・岩波122・124頁)までが、いずれも版本よりも後の位置にある。文覚の教訓により梅尾に住み始めたことに続いて、閑居を思い立った喜海に対して神護寺僧公尊の例を取り上げて遁世の無用を説得する記事(下16裏・岩波170頁)は、版本では下巻に収められるのに対し、慶應貞治本では上巻に載り、紀州大旱魃のときに大仏頂法を修し大雨が降った記事(上34裏・岩波138頁)の後に見える。上記の記事は『高山寺明恵上人行状』に見られない『明恵上人伝記』特有の部分で、その位置が版本や他写本に異なることは注目される。

阿部隆一氏が「貞治本は原撰本から通行本へと近づいて行く過程にある」と指摘したように(注4)、本書は未整備の状態を残しており、諸写本のうちでも最古態を保つ草稿的な性格を持つ伝本として重要といえよう。建永元年、後鳥羽院の院宣により梅尾の地を給わって高山寺と号すという記事から鬼類に授戒して施餓鬼法を毎夕修すという記事まで(上33表・34表・岩波137・138頁)のような、明恵の根本伝記とされる『高山寺明恵上人行状』所収の年代的な記事が欠けている点も特異で、初期の明恵伝記の参照した資料自体が、

かなり未整備なものであった可能性がある。

興福寺本・成實堂本・東大寺本といった興福寺系統本と同じく〔注5〕、明恵に対する春日の託宣記事（上13表裏・岩波118頁）や南都の住侶梵賢僧都が春日の神託を伝える記事（上31裏・岩波136頁）など、南都周辺で増補されたと思しい春日明神関連記事を収めることから、元来は興福寺系統の伝本と軸を一つにしていたと思われる。しかしながら、慶應貞治本は増補記事が変則的な位置にあることに加え、「此心依テ……本所ニ未失ト云、」（興福寺本285頁〔注6〕）、「上人窮テ柔和正直ニ御坐シカハ、柔和質直者皆見我身ヲ云文思知レタリ」（興福寺本286頁）など、興福寺系統本に見える文章が欠ける場合もあることから、興福寺系統本に遡ると思われる。

注1 『明恵上人伝記』の諸伝本については、拙稿『明恵上人伝記』の系統と成立」（『国語と国文学』平成15・4）。

注2 『慶應義塾図書館蔵和漢書善本解題』慶應義塾図書館発行 昭33。

注3 久保田淳・山口明穂校注『明恵上人集』岩波書店 昭56。

注4 注2 『慶應義塾図書館蔵和漢書善本解題』の25（梅尾明恵上人傳記）解題中（18頁）に記される。

注5 興福寺本・成實堂本・東大寺本は同一系統の伝本。伝本系統の詳細は注1論文を参照。

注6 『明恵上人資料 第一』東京大学出版会 昭46。

【凡例】翻刻は以下のような方針で行った。

一、句読点を適宜施した。

- 一、改行以外の行は追い込みとし、各丁の末尾には、丁数を算用数字で、表の場合は「オ」、裏は「ウ」と記し、「」で区切りを示した。例えば、一丁表の末尾には（「1オ」）と記してある。
- 一、虫損等で読み取れない字は、□で示した。
- 一、文字下げや改行は底本に従った。
- 一、文字の左側に書かれたフリガナは、\*を付して右側に付した。
- 一、高↓高、关↓癸、时↓時、軸↓融、所↓所、兼↓承、契↓熱、舜↓寂、回↓回など、異体字は適宜、通行の字体に改めた。

#### 【翻刻】

梅尾明恵上人傳上

沙門高弁者、紀伊国在田郡石垣吉原村ニシテ生ス。姓ハ平、父重国ハ高倉院武者所也。母、藤氏宗重女也。治承四年子授正月、母ニオクレ、同九月父ニオクレタリ。其時八歳、二親早世スルニヨリテ、伯母ニ養育セラル。ソノカミ父重国、ツネニ法輪寺ニ參詣シテ子息ヲ祈請ス。或夜、夢ニ童子一人来テ告テ云、汝カ請トコロノ子アタエムト□一ノ針ヲモテ右ノ耳ヲサスト見ル。亦母六角堂（1オ）觀音ニ請シテ日ヲヘテ堂ヲメクルコト万反、其間普門品ヲ誦シテ祈請シテ云、我難受人身ヲ得タリトイヘトモ、女人無智ニシテカナラス人身ヲウシナハム歟、ネカハクハ、大慈大悲、我後世ヲタスクル程ノ子一人タマヘト誠精ヲイタシテ祈念。爰ニ承安元年孟夏上旬ノ比、座シテ佛前ニネフル夢ニ人來テ金菓一顆ヲアタフ。是ヲ取テ□□リテフトコロニ入トミル。其後イクハクアラスシテ懷妊ス。同二年巳癸正月八日辰尅日出時誕生ス。（1ウ）

上人ミツカラ語云、二歳ノ時、乳母イタキテ清水寺ニ詣ス。此靈場ニ僧俗群集シテ、或時經ヲ誦シ或佛ヲ礼ス。其聲ヲ聞ニナニト思ヒワキタル

事ハナカリシカトモ、心スミテタウトク覺ヘキ。其後地主ノ前ニ猿樂シケルトコロヘ、乳母見物ヲタメニトテ、クシテマカリタリシニ、是ハ見キ、タクモノナクシテ、サキノ所ヘユカムトナキタリシ。是心覺ヘテ法ヲタウトク思ヒ始メシ時ナリ。其以前以後ノ事、タシカオホヘスト云々。(2オ)

四歳ノ時、父タハフレニ烏帽子ヲ取テキセテイハク、カタチ美麗ナリ、男ニナシテ御所ヘマイラセント云。予ヒソカニ心思フ様、法師ニコソナリタク思フニカタチヨシトテ男ニナサレシ。カタハツキテ法師ニナサレト思テ、或時エムヨリオツ。人ミツケテイタク取テアヤマチケニ思ヘリ。其後、アル時、又顔ヲヤキテ疵ヲツケムト思テ火箸ヲヤク。其熱氣オソロシク覺テマツコ、ロミニ左ノ臂ヨリシモスコシサカリテヒキア□、其アツサニ泣顔ニハアテスシテト、マリヌ。又是佛法(2ウ)「タメニ身ヲヤツサムト思ヒシ始メナリト云々。

七歳時、母夢ニ此兒白服ヲ着シテ西ヲサシテトヒサラムトス、仍白布ヲ以テハシリテ柱ニユイツケタルニヒキ、ルトミル。此事ヲ高尾文覺上人ニカタル。上人ノ云、昔カノ玄奘三蔵母ノ夢ニ白服ヲ着シテ西ヲサシテトフトミケルヨシ、彼傳ニミヘタリ。希有ノコトカナトテ、請シテ弟子ニセム事ヲ約ス。九歳ニシテ、八月親類ハナレテ、既ニ高尾山ノホラセラル。ナニトナク故郷名残惜ク覺ヘテ、泣々馬ニ乗テ(3オ)「ユクニ、ナル瀧トイフ川ヲワタル時、ソノ馬立トマリテ水ヲノمامトスルヲ、手綱ヲスコシヒキタレハ、アユミク、水ヲノムヲ見テ思様、畜生トテツタナキ物タニモ、人ノ心ヲシリテユケトコソソ思フラメトテ、ト、マラスシテアユミナカラノムラメ。我レ父母ノ遺命ニヨリテ寺ニ入ニ一タム親類ノナコリノオシケレハトテ、ナカル、事ノウタテサヨト、ハルカニ馬ニオトリニケリト覺ヘシカハ、即戀慕ノ心ヤミテ一スチニ貴キ僧ト成テ親ヲモ衆生ヲモミチヒカムト

心中(3ウ)願ヲ發シケリ。其夜、坊ニユキツキテネフル夢ニ、サキタチテ圓寂セシ乳母身ノシ、ムラ段々ニキレテ散在セリ。其苦痛オヒタ、シクミエキ。此モノ、平生ツミオモカルヘキ者ナリシカハ、思合セラレテ、コトニカナシクテ、故郷ノ戀シサモ覺ヘス。我カ父母モカクヤオハスラム、イカ、シテトクヨキ僧ト成テ、カレラカ後生ヲモタスクヘキト思トリ給ケリ。父母ニ送レタル事、朝暮ニオモヒワスラル、時ナシ、犬鳥見テマテモ父母ニテヤアルラムト思、(4オ)「ムツマシクモ、又ウラヤマシクモ覺ヘテ、即時ニ立カヘリテ拜シキ。又タハフレワラフ事アル時モ、若父母三途ニ入テ苦患ヲヤウケ給ラム、コレヲタスクル程ノコトナカラムサキニ何事ヲ心ヨクシテカタハフレワラフヘキ、若又中有ヨリハコナタノ振舞ハ皆ミユルナルニ、中有アリテワレワレミルコトアラハ、ワカレワモナケカス、クルウラム苦ヲモ思ハスシテ、放逸ニ歡樂シテタハフレワラフヲミムコト、ハツカシク覺ヘテ、タヤスク戲笑スル(4ウ)「コトナカリキ。今ハ一スチニトク法師ニナリテ、オコナヒツトメテ貴カラムコトヲ思フ。仍華嚴ノ五教章ニ悉曇等ヲ受学ス。同ハ如法ノ人ニコソナラハメトエラヒ思、其比賢如坊律師尊印ニ行儀タ、シクシテ、又碩学ノホマレアルニヨリテ、ソコニカヨヒテ義ヲ問タテマツル、大方ノ字面サルコト、モ有シヲ、イカ、シテアキラメムト思テネタル夜ノ夢、(5オ)「一人、梵僧來テ對シテ、此不審ヲ一々ニ説アキラム。誠ニカクコソト覺ヘテ隨喜無極ニ。有テ暫ク此僧語云、汝前世ニ釋迦如來ニ結縁シタテマツルコトオホシ、當來亦五百生親近シテタテマツルヘシトテ去ヌ。翌朝尊印ニゴノオモムキヲ語ル此深義マコトニ殊勝ナリ、日來遇慮オヨハサルトコロナリ、希有ノ思ヲナサレキ。十二歳ノ時思様、真正知識ヲモトメテ其正路ヲキカスハ、イタツラニ心ノヒマ

ヲノミ費シテ(5ウ)「得道益アルヘカラス。大ナル損ナルヘシ。況ヤ又生死スミヤカナリ、後ヲ期スヘキニアラス。イソキ或正知識ヲモトメ、或猶山フカキ幽閑トチコモリテ修行セムト思テ、既ニ高尾山ヲ出ト思ナリ。又仍藥師堂詣シテ暇申、又鎮守八幡大菩薩モイトマ申テ、マカリ婦テ暁出ト思テ夜ノ夢、ステニ高尾ヲ出テ三日坂マテ出タレハ、路大蛇カシラヨサ、ケテオイ来テ、路ノ前ニヨコシマニフサカレリ。又八幡大菩薩ノ(6オ)「御使トテ四五寸ハカリナル大蜂トヒ来テ云、汝此山ヲ出ヘカラス、若サラハ、サキ難ニアフヘシ。イマタ其時節到来セサルカ故ニ道行又不可成トイフト思テ夢サメヌ。仍子細コソ有ラメト思シカハ、ソノタヒハ思ト、マリ又ケリ。十三歳ノ時心ニオモハク、今ハ十三成ヌ。年□ステ老タリ、死ナム事モチカツキヌラム。老少不定ノナラヒニ今マテイキタルコソ不思議ナレト思シカハ、古人モ道ヲ学スル事、火ヲ切カ(6ウ)「コトクナレトコソイフナルミ、イフクニテスクヘキニアラスト、ミツカラ鞭ヲス、メテ、ヨルヒル道行ヲハケマス。アル時、ウシロノ山ノ木ノウツロ木ノ葉フカクツモレルウエニツネユキテ坐ス。或時、見解オコル様、カ、ル五蘊ノ身ノアレハコソ、ソコハクノワツラヒクルシミモアレ、婦叔シタラハ虚空ノコトクシテ、一切ノ災難ノオヨフ所ニアルヘカラスト思フ事猛烈ナリシカハ、ヤカテ今夜犬ニモ狼ニモクイタカル物ナレハ、功德ナカラニ(7オ)」

回向シテクハセテ死ナムト思ヒテ、五三昧原ヘユキテフシタルニ夜フケテ犬トモアマタ来テクラキマキレニアタリニテ物クウオトナヒナトシテ、ホエイカミクヒアヒナトス。タケク思切テ、ユキテフシタリシカトモ、サスカオサナキ心ニオソロシク覺テ、キエ入心チス。二三足来テ、ワレヲモヨクカキテミテ、イカ、思ケム、クイモセテ犬トモカヘリヌ。此時思フヤウ、身ヲステムト思ヘトモ、定業

来ラヌハ死(7ウ)「マシキコトニコソトオモヒトマリヌ。オトナシク成テ後、此事ヲ思ニ其時ノ見解ニテ死タラマシカハ、アサマシキコトニテアリナマシ。ハカナカリケルコトカナトテ、ミツカラワラヒ給ケリ。十三歳ヨリ十九マテ金剛界ノ初行ノ期ニイタルマテ、毎日三度高尾金堂ニ入堂ス。七ケ年之間、退転スルコトナシ。ネカフ所ハ、ナカク世間榮花ヲステ、名利ノ羈鎖ニホタサレス、カナラス文殊ノ威ヨリテ如実ノ正智ヲ得テ仏意ノ(8オ)「源底ヲキハメ、聖教ノ深旨ヲサトラム事ヲ望ム。シカルニ世間ニタ、シキ真ノ知識モナシ。誰ニ問ヒイツレヲ尋ヘキ。諸佛菩薩御加被ニアラスハ、更ニ得ヘカラスルトコロナリト思テ一心佛力ヲ憑ニアフク。然間、連奇特トモ不思議トモ申ヌヘキ事トモ有。又大高巖ノ上ニ奇麗ノ灌頂堂ヲ立テ師匠ヲ受者トシテ灌頂ヲサツケタテマツルト夢ニ見給時モアリケリ。其時ハ真言師(8ウ)「ナラムスルカト思テ祈請ノ本意ニモ非ス覺キ。スヘテカナラス真言師モ碩学トイフモ、誠ニ悟證ノ分モナクテ廣学ナルハカリハ、浦山敷モナシ。只佛出世ノ本意ヲサトリ、佛心ニモトツキアキラカニシテ、證修□事ヲノミ思キト云々。或時夢ニハ弘法大師納涼房ノナケシヲ御枕ニテオハシマス。二ノ御眼、大ナル水精ノ玉ノコトクシテミエ給ヲミツカラ取給テ汝ニ付属ストノタマヒテ(9オ)「タマハルヲ給ハリテ、袖ニツ、ミテモツトイフコトヲモミ給ケリ。文治四年十六歳ニシテ落髮、東大寺戒壇院ニテ受具足戒。

十九歳ニシテ、夢ニ梵僧来テ明日理趣經ヲ汝ニ可授トイフトミテサメヌ。翌日々中ノ行法ニ壇上ニコエアリテ、理趣經ヲハルカニ遠キカタヨリ物ヲヘタテ、ヒ、キクルヤウニテヨミサツク。初段ノ金剛手若有聞此清淨出生句ノ下經ノ終ヲツクス。其聲、シカモ近(9ウ)「壇上ニアルヤウニテ、遠近在所殆キ、サタメカタシ。出堂ノ後、是

記セムトスルニ經ヲヨミハシメラレツルトコロ、タシカニ覺ヘス。仍閣筆、モシ大聖ノ指授タラハ重テ示コトヲオモフ。ワツカニ目ヲフサクニ、又コエ有テ示コト有ケリ。或トキ不動ノ法ヲ行スル事アリ。道場忽ニ花苑トナリテ、種々ノ寶花弥布セリ。異香ヲイタシテ道場ニ薰滿。又種々ノ寶網寶鈴寶幡蓋ヲモテ道場ヲ莊嚴ス。上人(10オ)「在其ノ中ニ此法ヲ修スルニ宝鈴右ニ旋テ其身ヲ遶。又三十餘口ノ梵僧行烈シテ、或ハ手ニ香爐ヲトリテ讚ヲ誦シ給フ、上人カタリタマハク、如ノ此瑞連々ニ現ス。シカレトモ、タ、クソノカシラヲミルカコトシ、イシ、ト思コトナシ、只トヒノマイカラスノトフモオナシ事也。汝トモ、加様ノ事ヲハツレテミルトモ、サオモヘトソオシヘ給ヒケル。

建久四年、華嚴宗興隆ノタメニ公請ツト(10ウ)「ムヘキ評定アリ。学道雌雄ヲアラソヒ、勝劣ヲ論。シカレトモ、是ヲイトナミテ誠ノ佛法ノ益ヲ得ヘシトモ覺ヘス。アチキナキコトナリ。今ハ如此ノ僧中ヲ出テ□本意ノコトク文殊ヲ師トタノミ奉リテ仏道ノ入門ヲ得ヘシト思テ高尾ヲイテ衆中ヲ辞シテ紀州ニ下向ス。其ノ時オモヒツラネ給ケリ。

山寺ハ法師クサクテキタカラス(11オ)「

心キヨクハクソフクニテモ

湯浅ノ栖原村白上ノ峯ニ宇ノ草庵ヲ立テ居ヲシム。其所、大磐石左右ニソヒエエテ小流水前後ニイツ。彼ノ高巖ノハサマニ五架三間ノ草堂ヲカマヘタリ。松ノハシラ、竹ノ戸、タ、アルニマカセテカナラス外ニモトムル事ナシ。マエハ西海ニムカヘリ。ハルカニアハチ嶋ニ望ムハ、雲ハレ浪シツカニシテ、眼キハマリカタシ。北ニ谷アリ、鼓谷ト号ス。溪風ヒ、キ(11ウ)「ヨナシテ巖洞ニ聲ヲオクル。又草庵ノエムヲウカチテ、一株ノ老松アリ。其シタニ繩床一脚ヲタツ。又

西南ノスミニ二段ハカリノシタニアタリテ一字ノ小庵ヲタツ。同宿一兩人コ、ニアリ。坐禪行道寢食ヲモワスレテ、オコタリナキサマナリ。各佛像ニ向テハ在世ノ昔ヲ戀慕シ、聖教ニ對シテハ說法ノイニシヘヨウラヤム。上人或時述テノタマハク、彼ノ叟多ノ證智法身ヲミルト(12オ)「イヘトモ、百歳以後ノ出世ナヲ生身ヲ不拜一ウラミアリ。況、滅後數百年ノ後、末法ノ世ニムマレテ在世ノ真容ヲモ拜シタテマツラス、四弁ノ說法ヲモキカス、賢聖向果ノ道ヲモ耳ノ外ニキ、西天所々ノ遺跡モ是ヲ拜スル思ヲタテリ。カナシキカナヤ。我等、只、春來レハイタツラニ花ニタハフレ、秋ヲムカヘテハホシキマ、ニ菓ヲ翫フ。アケクレ、心ニウカフ事トテハ法欲能欲財欲(12ウ)「ニノミウツモレテ、ナニカ加様ニウコキハタラクトイフコトヲモシラス。タ、物ウチクヒテハネフルハカリヲコト、シテ、他ノ非、他ノ失ヲ心思ヒ口ニノへ戲笑テムコクキハマリナシ。是ヲ以テ思、我等カ第八識雜染種ノ中ニハ、只生死有漏ノ中ノ衣食コノ増上業ノ種子ヲノミ裏メリ。シカレハ、其カムスル所ハ只世間ノ五欲ノ味ノミムサホル。更ニ無漏新薰ノタネナシ。アチキナキカナヤ、ハツカシキカナヤ。(13オ)「前世オロカニシテ、三十二相ノ花ノスカタヲ拜スル春モキタラス、三菩提ノ菓ヲムスフ秋モムカヘス、コノウラミヲ思ニムネヲサクカコトシ。ナニノアチハイアレハカ、世樂ニホコラム。如來最後人寂ノ中夜ニ遺戒ヲタレテノタマハク、汝等比丘、マサニミツカラカウヘヲ摩、カサリヤステ、好着壞色ヘシト云々。馬鳴論師、此文ヲ釋シタマフニ、上々尊勝ノ處最先折伏ス、故應自知故云々。汝等憍心(13ウ)「タチマチニオコラハ、ミツカラ頭ヲサクリ壞色ヲ着タル理ヲ思ハ、貴高憍心オノツカラ治セラレムコトヲノタマヘリ。シカルニ、適頭ヲソレルニモ、弥ソノ頭ノキラメケルヲ心ヨクシ、衣ヲ着セルモ、マス、壞色ノテレルヲコ

ノム。ツタナキカナヤ、道ノタメニ身ヲヤツサハ、眼耳鼻手足ヲキルトイフトモ、ソキスルトコロナリ。サレトモ、カレハ凡身ノ堪ヘキコトニアラサレハ、マツ上ニ尊勝莊嚴ノ鬢髮ヲオトシテ、志ヲイサ(14オ)「キヨクセムコトヲサツケタマヘリ。シカルヲ、ステニ薬ヲ服シテ病ヲオコス。方術ヲコ、ニツキタリ。如此衆生汗利<sup>法</sup>トク、如来ノ本意ニソムケル事ヲ思<sup>ヒ</sup>ツ、クレハ、髮ヲソレル頭モ其シルシナク、壞色ヲ着セル形モソノカイ更ニナシ。

又其翌日、經文<sup>被</sup>華嚴經第廿五<sup>六十經也</sup>、如来他化自在天王宮、摩尼宝殿上ニマシ<sup>レ</sup>テ、無量不可思議大菩薩衆ト共ニ<sup>十地</sup>法門ヲ説(14ウ)「タマヘルコトヲ見<sup>ル</sup>ニ、誠ニケタカクイミシク覺ヘテ、ウラヤマシキマ、ニ、此經文ヲヨミツ、ケタレハ、我モ其ノ中ニマシハリツラナレル心チシテ、カナシミノ涙ヲノコヒ、耳ノイタサヲシノヒテ、泣々コヘヲアケテ、大方廣佛華嚴十地品第二十二、余時、世尊在化自在天王宮、摩尼宝殿上、興大菩薩衆俱、於阿耨多羅三藐三菩提、皆不退轉、乃至其名曰金剛藏菩薩、宝藏菩薩、蓮華藏菩薩、德藏菩薩、如来像菩薩、佛德藏菩薩、(15オ)「解脱菩薩、如是等、無量無邊不可思議不可構説トヨミツラヌレハ、佗化會上ノ莊嚴眼ニウカヒ、在世説法ノ慈顔シタシク拜シタテマツル心チセリ。仍悲喜ノ涙ヲノコヒ、聲ヲハケマシテ經ヲ誦スルトコロニ、眼ノ上忽ニカ、ヤク心チス。目ヲアケテミルニ、虚空ニウカヒテ現ニ七八尺ハカリノ上ニ<sup>二</sup>殊師利菩薩、身色金色ニシテ現シ給ヘリ。其ノ御タケ三尺ハカリナリ。光明カ、ヤケリ。良久シテ現セス。仍イヨク<sup>レ</sup>志ヲハケマシテ(15ウ)「他事ナク仏心ヲ成就セムコトヲ祈請ス。

又或夜ノ夢ニ見給、大海ノ中ニ<sup>二</sup>五十二位ノ石トテ、其間一丈ハカリヲヘタテ、大海ノオキニ<sup>二</sup>向<sup>ニ</sup>次第ニコレヲナラヘヨケリ。我踏テ行ヘキ石ト思<sup>フ</sup>其処ニイタル。信位ノ石ノ処ニ<sup>ハ</sup>僧俗數多ノ人アリ。シカル

ニ信ノ石<sup>躍</sup>初住ノ石ニイタルヨリハ人ナシ。只一人初住ノ石ニ至<sup>ル</sup>。又オトリテ第二位ノ石ニ至。カクノコトク次第ニヲトリテ、十位ノ石ニオハリテ、又初行石ニイタル。一々ニフミテ乃至(16オ)「第十地等覺ノ石ト云マテ至テ、彼妙覺ノ石ノ上ニ立テミレハ、大海邊畔ナシ。十方世界コト<sup>レ</sup>クサハリナクミユ。来レル方モハルカニトヨクナリヌレハ、此所ハ人是ヲシラス。今ハ婦<sup>テ</sup>語ラムト思<sup>フ</sup>。又逆次<sup>ニ</sup>次第ニフミテ、信位ノ石ノ処ニイタリテ、諸人ニカタルトミル。

又西域慈恩等傳記ニヨリ所々遺跡ヲ檢テ、或ハ又求法高僧巡礼ノ跡ヲ尋テ下筆テ注シアツメタル物アリ。号シテ金文玉(16ウ)「軸集トナツケラル。其端<sup>ニ</sup>誰人ナリト云トモ有心ノ人ノタメニ没後ノ付屬ヲチキリテ、一首ヲ詠、

人ノミテワラハムコトモカヘリミス心ヤリタル秘蜜授記カナトカキツケラル。

又此草庵ニ数月ヲ送テアタ、カニナル食ナシ。又塩曾ノ類モハルカニトヨサカル。有待ノ身ナレハ、四大乖違シテ白痢ノコトクナル物ノシカモ白痢ニハアラサルカ、腹ワタノ損セルカトウタカフ利下<sup>テ</sup>數日ヲフルアヒタ、誰人シハラク療ヲ加ヘ藥ヲ服シ給ト(17オ)「申セトモ、邊鄙、醫藥マレナリ、カナラスサマテ奔走スルニヨハス。又生者必滅何ソ始メテ驚カム。タトヒ佛道修行ユヘニ病ツキテ死セハ、修道ノ志ヲシテ来世ニツカム事、今日ニ明日ヲツクニコトナラサラムト云々。爰<sup>ニ</sup>或夜夢中ニ一人ノ梵僧来テ白器<sup>ニ</sup>アツクシテ毛ヲツ湯ヲ一坏入テ是ヲ服スヘシトテサツケ給ヘリ。心ニアサミノシルカト覺ヘテ、皆コレヲ服シヌ。其時夢サムル時ニ猶其アチハヒ口ノ中ニアリ。即時ニ心快シテ、病(17ウ)「氣逐日<sup>ニ</sup>平癒セリ。其後、白上ノ庵イサ、カ難儀ナル事トモ有<sup>テ</sup>スミタクモナクテ、眺望心ニアヒタル所アラハ暫モ住セムト思テ、相シリタル在家仁ヲミチシルヘ

ニシテ、淡路国ニマカリテ、アハシマナトミメクリテ、サリヌヘキ所モナシ。カ、ルトコロニ文覚上人所勞難治之由、同法ヨリツケタリシカハ、今一度向顔ノタメニ高尾ヘマカリタリシニ上人所身スコシ減氣ヲ得ラレニケリ。告曰、フカク思様アリ、此寺チカキトコロニ閑居多シ、マケテ草(18オ)庵ヲ結テ住シタマヘ。此山ノ奥ノ磐屋ノムカヘニ大盤石ナラヘリ。其躰奥アリ。カレニ草庵ツクリテマイラスヘシ。又コ、御心ニカナハスハ、梅尾ニイホリツクリテ進スヘシ。カレニスキタル閑居アラシ。トコロカラモ佛法久住スヘキ地形ナリ。又運慶法師ヲ作タル釋迦像、付屬シタテマツラムナト、サマノネムコロニ留ラル。又唐本ノ十六羅漢トリヨセテタヒナトシテ丁寧ニ仰ラル。老病躰少減、躰ナレトモ、心神イマタ心ヨカラス。露(18ウ)命、旦暮期シカタシ。イカニミステタマフソナト、イサメラレシホトニ、暫ト思テト、マルトコロニ、衆僧コソリテ所望ノ間、辞スルニトコロナクシテ、探玄記講之。其夜夢ニ春日大明神、此宗ノ傳通ヲヨロコヒ給テ、坊ノエムニ立テ舞タマフト見ル。

又其比、カノ春日ノ御社ニ御神樂ノ有ケル次ニオサナキニコノ有ケルニツカセ給ヒテ、此宗高尾被講誠ニ深義ヲノフル事、昔ニヒトシ。ウレシキカナヤク、タレクモユキテキケク、明恵上人ヲハ我太郎ト(19オ)思、解脱上人ヲハ我二郎ト思ト御託宣アリケルトテ、ナラヨリ来レル學侶カタリ申事ヒロフシケリ。

又此上人ノ御事ニツキテ連々ノ御託宣アリ。事多ヨリテコレノセス。本所ニ注シヨケリト云々。

又社官ヨリモ此山ニ此記ヲオクレリ。別紙ニ有之。此上人、外ニ聖教ノ源底ヲキワメ、内ニ禪定ノ證智相應シタマヘリ。若ハ一管ノ筆、一廷墨、若ハ栗柿ノ一ヲアケテモ、其理ヲノヘ、其儀ヲ尺シ(19ウ)タマフニ、ハシメ凡夫、我法ノ上ニ栗柿シリタル様ニ孔老ノ

教ニ尺セルヲモムキ、又ニ乘外道ノ見ニワキマヘタル躰、又自宗ノ五教ニヨル小乗ノ人空法有、始教ノ縁生即空、終教ノ二空中道、頓教ノ默理、圓教ノ事々相即、又般若ノ真空、法相ノ唯識無境ノ談、法華ノ平等一乘、涅槃ノ常住佛性、一々ノ經宗ヨリテ栗柿ノ義ヲ述ニタトヒ我一期ヲツクシテ日本國ノ紙ハツクルトモ、其義ハ説ツクシカキツクシ給ヘカラス。(20オ)

建久九年秋末、ムツカシトテ、モトスミステシ紀州白上ノ峯ニ帰給シカハ、此所ナヲ人チカクシテ樵夫ノ斧ノヲト耳カシマシク、又三四丁ノ下ハ大道ナリ。ウルサキ事モアレハ、石垣山奥人里三十町ハカリヲヘタテ、筏立トイフ所アリ。有奥靈地ナリ。上人舅湯淺兵衛尉宗光、シル所ナリ。仍ソレニ草庵ヲカマヘテ請申ケレハ、ウツリ給ニキ。坐禪道行、又此所ニシテ萬事ヲステ、イトナミ給ケリ。其間、唯心觀行式一卷撰集、(20ウ)又隨意別願文同集之、又解脱門義并信種義撰之。

建仁元年二月ノコロ、如心偈釋并唯心義ニ卷作之。

紀州保田庄門スサノ明神、夢ノ中ニ降臨アリテ、住所ノ不淨ヲ歎。又一尊之法傳受之志フカキヨシヲ被述。雖然、無沙汰ニテ心中ハカリ存ラレテ日ヲオクラレケル程、或時人ニ託シテ此趣ヲ重テ託宣アリ。サキノ夢ニタカハス、フシキニ(21オ)思合ラレケリ。爰難身其憚アリ、受法ノ器アラスト云テ、堅ク辞セラレケレハ、泣々アマリニ歎申サレケル間、阿弥陀印真言ハカリヲ傳受、歡喜悅預シテ去ヌ。如此靈物帰依渴仰、值遇ノ志ヲノフルタクヒ、其カスヲシラス。

石垣ノ地頭職違乱ノ事出来テ他人ト相論シテ六倍事キコヘシカハ、保田星尾ト云トコロニウツリスミ給ケリ。

建仁年中、春日大明神上人ノ御事ニ付テ(21ウ)度々御託宣事アリ。

コト多ヨリテ別紙有之。元久二年春比、年来ノ本意タル間、渡天竺事思立給ケリ。同心之同行五六人アリ。志ヲ一ニシテ、ステ其營及フ。又大唐雍州長安城ヨリ中天竺王舍城ニ至マテノ路次ノ里ノカス大小、尋先達之舊記、コレヲカムカヘ注ス。彼路次ノ抄物、イマニ上人ノ經袋ノ中ニアリ。然間、評定シイトナミテ、殆衣袋ノ出立及フ。シカルニ上人俄ニ重病ニ煩給コトアリ。其病之躰、普通ニアラス。(22オ)「飲食例ニタカハス、大小便時起居アヘテワツラヒナシ。此渡天竺ノ談義ヲスルタヒニ、或時ハ左ノ片腹カタハラキリサクカコトクイタク、或時ハ右ノ方苦痛ス。心中ニフカク思サタムル時ハ、兩方腹背ニトホリテ刺疼シ問絶ス。是タ、コトニアラス。先年渡天竺ニステ思立シ時、春日大明神種々御託宣アリテ留給シニヨリテ、思トマルトイヘトモ、其志難休シテ又思立トコロナリ。シカレトモ、如此ニテ數日ノ病惱イライ憔悴無力ニシテ、遠行更オモヒカタシ。仍コ、ロミニ(22ウ)「本尊釋迦御前、亦春日大明神御前、善財五十三ノ知識御前、此三所ニ筆ヲ書テトルヘシ、一ニハ西天ニ渡ルヤ、一ニハ渡ラスヤ云々。シカルニ此三所ノ内、タトヒ一所ニテモ渡トイフ筆アラハ、其志不可変トテ、誠マコトイタシテ祈請シテ是ヲトル。善知識ト大明神ノ御前ノ筆ヲハ他人ニコレヲトラセ、本尊ノ御前ノ筆ヲハ上人ミツカラコレヲ取處ニ、仏前ノ壇ノ上ニ一ノ筆ヲウツスニ、一ノ筆忽ニコロヒテ壇ノ下ニオツ。是ヲ求終(23オ)「失。フシキノ思ニ住シテ其残レル筆ヲヒラキミルニ、渡ヘカラスト云事ナリ。知識明神ノ御前ノ筆、同不可渡ノ筆也。上人其朝語云、今夜夢夢空中ニ驚トフ、其上ニ一人白服シラカミ着セル俗人猶カノウヘアリテ、春日大明神ノ御使トオホシクテ、一ノ鷺ヲ射トストミツルト云々。今思合スルニ、此筆ノ一ウセツルト符号シテフシキ覺キ。其比、南都ノ住侶焚賢僧都ノモトヨリ、態ト人ヲ奉ヲ其状云、去廿四日參詣

春日社壇、念誦之間、(23ウ)「オリフシ御神樂アリ。舞巫ノ中ニ俄ニ神託シ給テ云、我無量劫ヨリ一切ノ佛法ヲマモリテ一切ノ衆生ヲ渡セム事ヲチカフ。然ニ明惠坊ホトノ僧、コノコロ異朝ニモマレナリ。況、我朝アラムヤ。於此國ニ度衆生ノ縁アリテ、此所ニ生セリ。シカレトモ、前生ニ中天竺アリシ餘執ニテ、釋尊之遺跡ヲシタフ志フカクシテ天竺ニ渡ラムコトヲ思フ。天竺ニハ是ホトノ比丘モマ、アリ。仍我闕タル所ヲオキヌハムカタメ、又此國ノ衆生ニ縁アル事ヲ思テ渡(24オ)「天竺ノ事頻シバシバ先年ヨリ惜ウレシト、ムトイヘトモ、猶其志不ズ休ズシテ、其イトナミニ及ヘリ。先途程遠シ、渡ナハ豈帰コトヲ得ヤ。若我心ヲヤフリテ進發セハ、本意ヲ成就セムコトアラシ。此オモムキヲシラスヤト云々。猶雖言多取詮ト云々。此焚賢ハ事縁アリテ上人ニ日来申承ル人ナリ。其ヨシミヲ以テ示申ニヤ。加様ノ事トモニヨリテ渡天竺ノコト又延引。

同二年秋比、紀州庵所、地頭職カスメ申人アリテ他領ナリシカハ、六借キ事アリテ、又梅尾還住スヘキ(24ウ)「ヨシ思ナリ給ケリ。其年ノ冬、極寒ノ後夜望テ坐禪シテ、暁あけ天あま至テ、ヒヘトホリテ休息セムトスル、持仏堂ヨリ足ヲトシテ人來、傍わき障子ヲアクルヲミレハ、ユ、シクケタカケニテ、其裝束、吉祥天弁財天等ノ如ナル者ミユ。ワレミサルカコトシ。暫時アリテ失トカタリ給ケリ。其後モ常ニ來ヲリクアリ。或時ハ、ソハナル人ノミル時モアリケリ。大威徳ノ眷屬ト覺ヘテ五六歳ハカリニテ髪ハカフロニテ手ニ弓箭モチテ、或時ハ赤あか、或時ハ青裝束シタル(25オ)「物、現シテ云、一ツノ方便ヲサツケラレマイラセ候テ、無始ノ煩惱除滅シ無邊ノ善根ヲ得テ、心モス、シク身モカロク覺候トテ去消モアリケリ。如此ノタクヒマ、ト云々。

上人紀州ニスミ給ケル比、八十余日及テ夏大干魃ナリ。国々村々ノ



田、所々ヤケテ、土民百姓ノナケキナノメナラス。種々ノイトナミヲシテ、雨ヲイノリ水ヲアケムトスレトモ、カナハス。爰、上人アハレミニタヘスシテ、心ミニ大仏頂ノ法ニツキテ、手ツカラ一ノ龍ヲ圖シテ加持シテ海ニ(25ウ)入。亦一ノ龍ヲ圖シテ加持シテ、其前ニシテ祈請ス。二龍ノ銘ニ毘盧舎那大竜王トカ、レタリ。毘盧舎那一解脱ノ主ナル大龍王ヲ賞スルニヨリテ、又彼法ニヨリテ水ヲ加持シテ高山ノ峯ニホリテ是ヲソ、ク。然三日ヲシメテ其期限トス。其間、同法兩三ヲシテ、別譯ノ花嚴世主妙嚴品ヲ轉讀セシム。第三日ノ未尅ニイタリテ、雲一片カノ神谷ノ山寺ノ上ニ出来、ホトナク大虚ニチテ、霹靂、轟、大雨降三日、萬人ヨロコハストイフコトナシ。(26オ)「其近隣ノ里人アマタ夢ニミケル、上人ノ草庵ノ上ヨリ龍二空ニホリテ、一ノ龍ハ水ヲ天ニソ、キ、一ノ龍ハ依大雨テ洪水ヲイタシ、田地ヲ損セシトシ給トミケルヨシ、申アヒケリ。此二ノ龍圖加持ノ事、同宿兩三輩ノ外、更ニシル人ナシ。各不及披露ニ。シカルニ不思議ニソオホヘシ。

文学上人ノ教訓ニヨリテ、上人紀州ノ庵ヲイテ、梅尾ニスミ給シハシメハ、此山松柏シケリ人跡タヘタリ。松風蘿月、物ニフレテ心ヲイタマシメスト云事ナシ。(26ウ)「爰ニワツカナル草庵ヲムスヒテ、最初ニハ上人ト伴ノ僧ト只二人ソスミ給ケル。竹ノカケヒ、柴ノカキ、心ホソキ様也。オノツカラトフラヒ来ルタクヒ、心ヲト、メサルハナシ。次年ノ春ノ比ヨリ、懇切ニソム輩有ニヨリテ四人トナレリ。其一人ハ喜海也。萬事ヲナケステ、只行道ノイトナミヨリ外ハ他事ナシ。ネフリユルスコト夜半一時也。髮ヲソリ爪ヲキル受用モ、日中一時ニハスキス。此ヨルヒル各一時ノ外ハ、更ニ他ヲマシヘサルシキナリ。(27オ)「オホロケノ志ニテハ、タヘコラヘ、キ様ニモナカリキ。此衆、四皓窓ヲナラヘシ商山ニ模スヘシトソ、ツネハ

上人タハフレ給シ。其後、又此衆ニマシハラム事ヲ難去ノソムタクヒ有テ、漸七人ニナレリ。其時ハサラハ竹林ノ七賢ノ友ヲムスヒシ跡ヲマナハムト仰ラレシカハ、此事世ニキコヘテ、道ニ志アル輩尋テマシハラムコトヲコフトイヘトモ、上人更ニユルシ給ハス。爰ニ或ハ門外ノ石上ニ坐シテ六七日食セス、或ハ庭前泥裏ニ立テ三五日不動。如此ノ振舞ヲ(27ウ)シテ、深切ナル志ヲ表ス。ミナコレ月卿雲客ノ親類也。世ヲムサホルタクヒニアラサルノミ交レリ。是ニヨリテ上人無力ユルシ給フホトニ、三年ノ中ニ十八人ニ及リ。上人、ヨシサラハ廬山ノ遠法師ノ會下ニシユンセム、此外ハ更ニユルスヘカラストソ、イマシメラレシ。此僧侶、志ヲハケマシ、心ヲオコシテ、一スチニ道行ノ為ニ頭ヲアツメタル事ナレハ、イツレオロカニハ見ヘス。面タイトナミアヘルサマ、我身ヲミルモサスカニ、人ヲミルモアハレナリ。ニタヒ正法ノ世ニ立カヘリヌルニヤト、随(28オ)「喜ノ涙ヨリク袖ヲウルホサストイフ事ナシ。カクテ年月ヲフルホトニ、又難去コト、モカサナリテ、十年ノ中ニ五十余輩トナレリ。サルニツキテハ、交衆ノ躰モウルサク覺テ、風情ヲカヘテ、又深山幽窟ニ獨ウソフカムトイフ心ツキヌ。仍ヒムキヲウカ、ヒテ、上人ノ前ニス、ミテ、コノオモムキノ所存ヲクワシクノヘキ。上人目ヲフサキテ思案ノ躰ニ暫アリテノ給ハク、道行ヨロシクス、マレム方ヲホムトスヘケレハ、トモカクモシテミ給ヘシ。但(28ウ)「經論聖教ノヨキテヲ能々勤ミルニ修行門ニニアリ。一ニハ善知識ノ下ニ居シテ、朝夕譴責セラレテ忍カタキヲシノヒ、タヘカタキニタヘテ、其軌矩ノキヒシキニコラヘ、其飢寒ノ甚シキヲコト、セス、寸時ヲモムナシクワタラス、道行ヲ以テ專ニイトナム、是精進心ノ人也。道ヲ成セムコトチカキニアリ。今カマヒスシキハカヘリテ道ノ礙トナル様ナレトモ、シラレスシテ道ニス、ムタヨリナリ。一ニハ幽閑ノ地ニヒトリ居シテ、夜寥々

晝寂々トシテ心ニサハル(29オ)「事一モナク、ヤス〜ユル〜トシテ、身ニワツラハシキワサアエテナシ。自然ニ道ヲ行スルニタヨリアル様覺ヘテ日月ヲオクル。是ハ懈怠心人ナリ。道ヲ成スルコトカタカルヘシ。因之契經ノ中ニ佛タトヘヲ取テ説給ヘリ。其心ヲトリテ申サン。タトヘハ、一日ノ中ニユキツクヘキトコロアル一人ハクルシク足イタケレトモ、杖ニスカリ、トカクシテ暫モト、マラスナヤミユケトモ、是ハトク其トコロヘ日ノ中ニユキツケリ。一人ハアマリクルシク足イタキマ、ニ(29ウ)「コラエスシテ、アル石ノ上ニヤスメリ。心シツカニ身ヤスクシテ歡喜キハマリナシ。此石ノ上ニアフノキニ臥テ空ヲミルニ陰雲アヒツ、キテ風ニシタカヒテ西ニユクコトスミヤカ也。コレヲツク〜トマホルホトニ、ワカフシタル石、東ニユク心チス。其時思様大切ナリ。アユムハ甚クルシキ、此石、舟ノコトクシテユクコトスミヤカナリ。大ニ悅思ヘリ。風吹タチテ雲ノハヤキ時ハ、此石ハヤクハシル心チスル時、ヒトリ事ニ石ニイフ様、目ノマハルニ、アマリニハヤクナユキソ、シツカニユクヘシ。ナニトナクトモ、(30オ)「カクテハトクユキツクヘキソトイフ。サテ日ノクレ程ニ今ハ百里ハカリモユキヌラムト思テケノ事シタリ、閑々寂々トシテ安穩ノ所ニモトツキニケリト思テ、オキアカリテミレハ、此ユクヘキ所ニモアラス。心中アヤシミ思テ、前ヲスクル旅人ニ其ユクヘキ里ヲトヘハ、イマタハルカナリ。日クレテ、ミチトヲシ。日ノ中ニユキツクヘカラストイフ、此安樂寥々トモテ石ノ上ニスクシツル事ヲクイカナシムトイヘトモ、カヒナシ。是閑ニハカサレテ懈怠ニオチタルヲ行道トオモヒテ、(30ウ)「一生ムナシクスクシタル人ニタトヘラレタリ。僧山中ニアルヲマサレリトイフハ、塵中ニワシルモノニ對シテ暫トク藥ナリ。佛ノオシヘ、知識ノコトハ、キ、トリアツメテ、ステニ或ハコトチニニカハシ、或ハ劔サリテヒ

サシキコトヲハシラステシテ、コレヲ山ノ奥マテヒチサケ持テ、ヒトリシテ菟角アテカヒ道ヲ行セムハ、只圓目ニ方鏡ニイル、ニナムソコトナラム。上々智ノ人ハ更ニアヤマリアルヘカラス。サル人ハ末世ニハ有カタシ。ナヘテ上中下根ノトモカラ、能々オモヒハカラフヘキ事ナリト(31オ)「仰ラレシニ、コトハリ至極セシカハ、感涙オホヘス、襟濕キ。又ソノカミ高尾ニ侍從阿闍梨公尊トテ閑院ノキレハシアリキ。遁世シテ山ヲイテ、後、又還住シテ後、懺悔トテカタリ申シ。此神護寺交衆ノ躰モ六借、行字トテハケムモ皆名聞利養ヲマヌカレス。如此ニテハウケカタキ人身ヲウケテ、アヒカタキ仏法ニアヘルシルシ更ニナシ。ムナシク三途ニシツママム事、ウタカヒ不可有。シカシ、此寺ヲ出テ心シツカニ猶フカキ幽閑ニシテ、今ハ一スチニ後生菩提ノ為ニ道行ヲハケ(31ウ)「ママト思ナリテ、ヨハラノ奥ニアル山洞モトメ出テ、イホリムスヒテスムホトニ、閑素寂寞トシテ心ノスムコトカキリナシ。ソムカサリケルイニシヘ今ハクヤシク覺ヘテ、十二時中ヲノツカラムナシクワタル事ナク、更ニ淨界ニ生タル心チシテ、勇猛精進ニ成カヘリテ半年ハカリ送ル程、夕、獨シツカナルマ、ニ、コシカタ行サキナニトナキ事共サマ〜思出ラル、ニ、アルトキ期セサルニ姪事オコレリ。公尊ヲサナクヨリ住山セシカハ、一生不犯ニテアリシユヘニ、女根(32オ)「ユカシク覺テ姪心シハ〜オコリテ、朝夕行法ノ次ニモイシキサハリニテ、トカクマキラカシ退治セムトスレトモ、難休カリシ程、中〜加樣ニテハ道ノサハリニテモ有。カ、ラム時ハ此心ヤムヘクハ志ヲモトケテ妄念ヲモハラヘトイフ方便モ有ニヤ、アマリニムツカシキ、サラハ志トケムト思テ、ニハカニアラヌサマナルスカタニ身ヲナシテ、亡者訪テテ人ヲ布施シタリシ物ヲ、モノ、ナキマ、ニ、サリトテハトテ、テムトウトカヤニトラセムト思テフトコロニ(32ウ)「入テ、色コ

ノミノ有所ヲ尋ムト思フ京方ヘユク程、夏ノコトニテイトアツキ、  
 京チカクナリテ、ムネハライタクナリテ、霍乱トイフ病ヲシタシテ、  
 吐瀉シテ苦痛申ハカリナシ。ミチノホトリノ小家ニ立ヨリテ、トカ  
 クシテ其夜ハトマリヌ。次ノ日モ猶ナヨリヤラテ、ワヒシカリシ  
 程ニ京ニ行事カナハスシテ、ハウノハラノ庵ニカヘリテ、サマ  
 〳療治シテ四五日トイフ心チナホリヌ。シハシハ其余氣アリテ  
 ワヒシカリシ程ニマキレスクシヌ。(33オ)又或時、本意トケムト  
 思テ、サキノコトク行ホト、イカ、シタリケム、ミチニテトキヲ  
 フカク足ニケタテ、血オヒタ、シクナカレ、イタミシノヒカタク  
 シテ、一足モアユム及ハス。ホトリノ人来テミテアハレミテ、馬  
 ノセテ庵ニオクレリ。是又トカクイエテノチ、又コリスマニ行ホト  
 ニ、此タヒハ相違ナク京ヘアユミツキヌ。色コノミノアル所ニタツ  
 ネ行テ、カ、クリアリクホトニ、心ハカリハシノヒタルスカタト  
 思、サスカ風情ノシルクコソアリ(33ウ)ケメ、年来シリタル俗  
 人ノソコニトナルニ目ヲ見合テ、アサマシキ事カキリナシ。キヘ入  
 ハカリ思ヘトモ、スヘキ方ナクテタテルニ、此ヲトコ云、イカニシ  
 テコ、ニハ立給ソトテ、ヨニアヤシケナルテイ也。イヨ〳心ウク  
 覚テ、トカクノヘマキラカシテニケカヘリス。サルホトニツイ二本  
 意ヲトクルニ及ハス。ソレヨリ後ハ、フツトコリハテ、思トマリキ。  
 カクシテスクール程、秋フカクナリテ、不食ノ病オコリテ、ツヤ  
 〳食精ス、マス。サルニツキテハ、ヨロツクヒ物キラハシクテ、  
 キヒアル(34オ)物タニアラハ、イサ、カクイヌヘキ心チス。日  
 数フルマ、ニハ、身モオトロヘ力モヨハリテ行道モ叶ハス。只ナヤ  
 ミイタルハカリニテアリシ程、カクテハ閑居ノカヒモナシ、身ヲ  
 タスケテコソ道行ヲモイトナマメト思成テ、伴ニヨキタル小法師ヲ  
 ハ京ヘ使ニヤリテ、其ヒマニ此山ノ奥ヨリ山人トモ鳥ヲ取テ京ヘウ

リニマカルカ、此イホノマヘチカキミチヲトマルヲ、シノヒテカヒ  
 トリテ、是ヲコシラヘテ時ヲモクヒテミムトテ、世事所ニオキテ小  
 用ニイテタル(34ウ)跡、ハナレ猫キタリテ、ミナクイチラシタリ。  
 是ヲミツケテ、ネタサトモナシ、オシサトモナシ、エムナル木ノフ  
 シヲ持テ、ナケウチニスル程、アヤマタス猫ノ頭ヲウチカキテ、  
 目ヲサヘウチソムセリ。ナキ、苦痛シテ、血オヒタ、シクタリテ、  
 □ノシタヘニケ入テ、サケヒナクコトカキリナシ。カクマテセムト  
 ハ思ハス、只オトシハカリニコソシツルニ、カハユサ、アサマシサ、  
 イフハカリナシ。山コモリシテ菩提ヲ成セムトコソ思タチシニ、ア  
 ラヌサマナル振舞トモシアツメニケル、カナシクフシキニ(35オ)  
 覚テ、悲涙オサヘカタシ。大方、此事トモ、タ、一スチニ放逸ニセ  
 シニモアラス。セメテモ行道ノタメニトテコソシツレトモ、ミナ悪  
 事ナレハ悪縁トノミヒキナサレタリ。大方此閑居ノアヒタ、萬事道  
 ノタメトコソセシカトモ、イクタヒモ身ノヤスカラム事ニ心ヒカレ  
 テ、シトスルコトハ懈怠千々ニナリキ。朝モ物クサキ時ハ日タクル  
 マテネフリ、夜ルモ火ナト、ホス事モナケレハ、クラキマ、ニヨヒ  
 ヨリサナカラネフリアカシ、スクニキル事モマレニ、イツトナク  
 (35ウ)或ハ物ニヨリカカリ、或ハ足ヲノヘ、サムキ夜ハ小便ナト  
 ヲサヘネヤチカクシテ、芝手水ハカリ心ヤリテウチシ。何事モ自  
 由ニノミソスキシ。カクハ、有マシキ事ソカシト、心ヲイマシメナ  
 カラ、トモスレハカ、ルシキニナリキ、サスカ人ナカニアラハ、自  
 然トカ、ル振舞ハアルマシキニト、中〳閑居ハ無益ナルカタモ  
 有ケリト思テ、本ノコトク神護寺ニ立帰テ見ルニ、公尊此山ヲ遁イ  
 テシ時マテ垂髮ニテ華嚴ノ五教章(36オ)ナトヲモ我等ニコソ文字  
 ヲミナトヲモシ義ヲモトフラヒシモノ、今ハ小僧ニテ来テイカニナ  
 トイフ。此程ノ御山コモリノ躰ヲモ參テ拜見シタク候ツレトモ、是

ヲ御出候シ比ヨリヤカテ出家シテ学文寸陰ヲモ惜様隙ナクテマカリ過候キ。山中ノ御行法、ウラヤマシク察タテマツリ候ツトテ、法門ヲトヒカケテ法理ヲキテ不審ヲシ、カクイヒノヘムトスレトモ、ハタトツマリテセム方モナシ。其時、此(36ウ)僧イフ様、山中ニテ此兩三年仏法ノ深理ノアキラメ給ヌラムト、イフカシク存候ツルニ、ナトヤ是程ノ事タニモ不分明候ト、タワフレイフ。ケニモハツカシキコトカカリナシ。ワレモカレモハナレテ三年ニコソナルニ、アレハ三年ヨキ知識ノモトニテ耳ヲウタセ義ヲトフラヘリ。我ハ三年タ、シツカニ行道スルト思タリツル計也。是ヲ以テクラフルニ、我モ中々此三ヶ年、此山寺ニテ行道ヲハケミタラハ、マサルヘカリケルニコソト、コシ方クヤシク(37オ)覺シト云々。此小僧ハソノカミ明惠上人神護寺ニスミ給シ比、群抜テ聖教義理ヲノヘ給カタヲナラフル人ナカリシ。ソコニカヨヒテツキソヒタテマツリテ、華嚴ヲ学シ談義ニ耳ヲウタセリ。此懺悔セシ事思出サレテ、カレトイヒコレトイヒ、カタ益ナカルヘシト思テ、喜海カ閑居モ思トマリニキ。

建保三年四月、梅尾ノ西ノ峯一字ノ庵ヲ立号曰練若臺ト。ウシロ北三段ハカリ谷一字ノ(37ウ)庵ヲ立、一兩ノ侍者コ、ニスム。坐禅行道ノ外他事ナシ。上人有時ハ額ヨリ光ヲハナチ、或夜ハワキヒサヨリ光ヲハナチ給フヲ見ル。此外不思議ノ奇特不可勝計。上人キハメテイタミ給シカハ不及披露。シカレトモ親近シタテマツル僧トモ禁スルニ所ナクシテ、スコシキモラシカタリ傳ル事共アリ。或時ハ護法現來シテ語、或時ハ弁才天來臨シテ謁。

此庵ニスミ給シ比、学生七八人カチコチヨリ來テ(38オ)圓覺經圭峯略疏、上人對タテマツリテ談之。上人此次自筆ヲモテ彼疏ニ點ヲクワヘラル。上人殊圓覺普眼章ノ尋思如實觀乃至三重法界觀ニヨ

リテ結業禪誦ス。又三宝礼釋一卷撰之。又同四年功德義抄之。此練若臺ニスミ給事三ヶ年及。然山タカクシテ嵐風ハケシク、涯ケハシクシテ雲霧ハレカタシ。室内濕氣、牆壁カヒタリ。上人コレヨリテ頭痛ノワツラヒアリ。仍コレヲスミスステ、石水院ニウツリ(38ウ)給。コ、ニヲヒテ又圓覺經略疏并修證義コレヲ談ラル。又梵網菩薩戒本香象疏上并南山淨心誠觀等談之。又或時ハ、行法ノ最中侍者ノ僧ヲ召テ手水桶ノ水ニ虫ノオチ入タルカトオホユル、トリアケハナテト仰ラル。仍イテ、ミルニ蜂落入テ死ナムトス。イソキトリアケテハナチケリ。又或時、坐禅中侍者スル僧ヨヒ給テ、ウシロノ竹原ノ中ニ小鳥物ケラル、ト覺ル。ユキテ取サヘヨト仰ラレケリ。イソキユキテミレハ、(39オ)小鷹ニス、メケラル、ヲオイハナチケリ。如此ノ事連々也。カソフヘカラス。或時ハ夜フケテネフルコトクシテ坐シ給ヘルカ、俄、アラムサウヤ、オソクミツケテ、ハヤクヒツルソ。火トモシテ、イソキユキテオイハナテト、オトロキテ仰ラル。前ナル僧、ナニコト候ソト申セハ、大ユヤノ軒アルス、メノスニ、クチナハノ入タルソト仰ラル。シムノヤミニテアルニ、ケシカラスヤト思ヘトモ、イソキ火トモシテユキテミレハ、ハヤ羽毛ヤウヤクオイタルス、メノコヲ、大クチナハノミカケテ、(39ウ)スノハタニマトヒツキタリ。イソキトリハナチニケリ。カ、ルヤミノ夜ハルカニヘタ、リタル所ノ物ヲタニモミ給フ。マシテ我等カカケニテアシキ振舞スル、イカニ不當御ラムスラントテ、御弟子同宿モウシロカケマテモハチヨソレテ、暗室ヲモホシキマ、ニハフルマハサリケリ。カ、ルコト、モノアレハ、權者御渡候ナト、人ノ御ウシロニテアマネク申候ト、侍者ノ僧ナトカタリ申ケレハ、コトコトシクハラトトシハシナキ給テ、アナツタナ(39オ)キ物ノイヒコトヤ。サレハトヨ、高弁カ如ク定ヲコノミ、佛ノオシ

へノ如クニ行シテミヨカシ。只今ニ汝トモ、カヤウノコトハアラン  
スルソ。我ハカヤウニナラムト思フ事ハユメノナケレトモ、法ノ  
コトク行スル事ノ年ツモリヌルマ、ニ、シラレスシテ具足セラレタ  
ルナリ。コレハイシキ事ニアラス。汝トモカ水ノホシケレハ水ヲク  
ミテノミ、火ニアタリタケレハ火ノソハヘヨルモ、オナシコトナリ  
トソ仰ラレケル。(40ウ)

タヨリニツキテ、シハシスミナレケル紀州荳磨ト云嶋へ状ヲツカハ  
サレケリ。ヨロ／＼見及所、少々是ヲシルス。其状云、

其後何条御事候哉。マカリ出候シ後、不得便宜候、不啓案内恐恨  
候。抑嶋ノ自躰ヲ思へハ、是欲界繫ノ法、顕形二色ノ種類、眼根ノ  
所取、眼識ノ所縁、八事俱生ノ躰也。色性即智ナレハ、サトラサル  
コトナク、智性即理ナレハ、通セサルトコロナシ。理ハ即真如ナリ。  
真如ハ(41オ)即法身無差別ノ理レハ即衆生界ト更差異ナシ。然  
者、非情ナリトテ衆生ニヘタテ思フヘキアラス。何況、国土身ハ即  
如来十身ノ随一ナリ。盧舎那妙躰ノ外ノ物ニアラス。六相圓融無障  
碍ノ法門ノ談ハ、嶋ノ自躰即国土身ナリ。別相門ニ出ル時ハ、即是  
衆生身業報身声聞身縁覺身菩薩身如来身智身法身虚空身也。嶋ノ自  
躰即十身ノ躰ナレハ、十身互ニ周遍セルカ故ニ圓融自在ニシテ、因陀  
(41ウ)「羅網ヲツクシテ、タカク思議ノ外ニイテ、遙ニ識知ノ境ヲコ  
エタリ。然者、華嚴十佛ノサトリノマヘニ嶋ノコトハリヲ思へハ、  
依正無碍一多自在因陀羅網重々無尽周遍法界不可思議圓滿究竟十身  
具足毘盧舎那如来ト云ハ、即嶋ノ自躰ノ外ニ何是ヲ求乎。カク申ニ付  
ケテ、涙ニ目ヲカヒテ、昔シ月日ハルカニヘタ、リヌレハ、磯ニ  
アソヒ嶋ニタハフレシ事思出サレテワスラレス。戀慕ノ心ヲモヨヲ  
シナカラ、見參スル期ナクテスキ候ヌ。(42オ)「ソレニ候シ大サク  
ラ思出サレテ戀シク候へハ、消息ナトヤリテ、ナニコトカト申タク

時モ候ヘトモ、物イハヌサクラノモトヘ文ヤル物狂アリナトトヨミ  
カケラレヌヘキ事ニテ候へハ、非分ノ世間フルマヒニ同スルホトニ  
思ナカラツ、ミテ候ナリ。シカレトモ所詮ハ物狂ハシクオモハン人  
ハ友達ニナセソカシ。宝州ニモトメシ自在海師ヲトモトシテ、嶋ニワ  
タリテ大海ニスマ、シ。海雲比丘ヲ友トシテ心ヲアソハシメムニ、  
ナムノタラサル所カアラムヤ。ソレニ(42ウ)「候テ本意ノコトク  
行道シテ候シヨリ、イミシキ心アル人ヨリモ、誠ニ面白遊意ノ友ト  
ハ、御所ヲコソフカクタノミマイラセテ候へ。年来世ノ中ヲ御ラム  
シタレハ、ムカシナラヒニ土ヲホリテ物語セシ者アリシソカシ、ト  
モヤオホシメスラン。ソレラハフルキコト也。コノコロ、サヤウノ  
コトハ世ニ似ヌ事ニテ候へハ、申セハソミアルニ似タリ。シカレ  
トモ、和合僧ノ律儀ヲ修シテ、同一法界ノ中ニ住セリ。傍ノ友ノ心  
ヲマホラスハ、衆生ヲ(43オ)「撰護スル心ナキニ似タリ。凡ハト  
カニシテトカナヌコトニ候ナリ。不取敢候テ、併期後信候。恐惶  
敬白

月日

高弁状

嶋殿ヘトソカ、レケル

使者、此御文ハタレニツケ候ヘキソト申ケレハ、タ、ソノ荳磨嶋ノ  
中ニテ、梅尾明恵房ノモトヨリノ文トテ、タカラカニヨハ、リテウ  
チステ、帰リ給ヘトソ仰ラレケル。末世ノ衆生、佛法ノ本意(43ウ)「  
ヲワスレテ、只、法師ノ尊ニハヒカル也、トフ也、穀ヲタツ也、物  
ヲキサル也、又学生也、真言師也トノミコノミテ、更ニムネト貴ムヘ  
キ佛心ヲキワメサトルル事ヲ不弁。上代大國猶此ウラミアリ、況ヤ  
末世邊州、ナムソ始テオトロカンヤ。上人ツネニカタリ給シハ、ヒ  
カル物貴クハ、ホタル玉虫ソ貴カルヘキ。飛物貴クハ、鷄鳥ナルヘシ。  
又不食不衣貴カルヘクハ、蛇ノ冬アナニコモリ、ウナカウシノハタ

カニテハウヲモ貴トムヘシ。学生ニテ頌詩ヲヨク(44才)ツクリ、文ヲ多ク暗誦シタルコトヲ貴ムヘクハ、白樂天小野篁ナトヲソ貴ムヘキ。サレトモ、是以詩賦之藝、閻老ノ棒ヲマヌカルヘカラス。サレハ、能僧モイタツラコト也。更ニ貴ニタラス。只佛出世ノ本意ヲシラム事ヲハケムヘシ。是文亡愚癡ノスカタナリトモ、ソレヲソ梵天帝釋モ拜シ給ヘキ。

凡此上人、アリケラ犬カラス田夫野人ニ至マテ、皆是佛性ヲソナヘテ甚深ノ法ヲ行スルモノ(44ウ)ナリ、イヤシミオトシムヘカラストテ、犬ノフシタルソハニテモ、馬牛ノ前ヲスキ給トテモ、サルヘキ人ニムカヘルカ如ク問訊シ腰ヲカ、メナトシテソトホリ給ナル。物ヲニナフアヲココロモ、是人ノ肩ニオク物也、笠ハ頭ニカツク具ナリトテ、コヘ給コトナシ。墻壁ヲヘタツトイヘトモ、人ノフシタル方ヘ足ヲノフルコトナシ。貴賤違順、アエテ差異ナシ。悪人猶カクレタル徳アリ、況一善ノ人ニオイテソヤトテ、善ヲキ、テハ心ヲコロヨクシテ、他ノアマネクキカサラン(45才)事ヲウラム。サレハ、集會講法ノ次ニハカク悟リ□メ給ケリ。又凡堂塔伽藍ニムカヒタテマツリテノ礼儀、三業清潔ナルテイ、眞信トシテイフニ及ハスソミヘ給シ。諸堂ノ中マテ馬輿ニノリ給事ナシ。イヤシキミチノホトリノ草堂ニサシ入マテモ、マサシキ生身ノ如来ノ御前ヘノソミ給躰モ、カクソアラムスルトソミエ給ケル。行路ノ間ニモ、堂塔ノフルキ跡、マサシキ佛座ノ跡ヲフムコトナシ。又ケサカケスシテカリソメニモ聖教ヲ手ニトリ給コトナカリキ。經論(45ウ)聖教、次第ヲタ、シテカサネヲキ給ケル。マシテタカキ物ノウヘナラテ見給コトナシ。

或時、上人語曰、我ニ一ノ明言アリ。我ハ後生タスカラムト申モノニハアラス。タ、現世ニアルヘキ様ニテヤラムト申モノナリ。聖教、

中ニハ、行スヘキ様ニ行シ、フルマフヘキヤウニフルマヘトコソトカレタレ。現世ニハ、トテモカクテモアレ、後生タスカレト説ケル聖教ハナキナリ。サレハ、佛ノ言ク戒ヲヤフリテ、ワレヲミテ何益カアルト云々。仍阿留邊幾夜宇和□(46才)七字ヲタモツヘシ。是ヲタモツ善トス。人ノワロキハ、ワサトワロキナリ。アヤマチニワロキニハアラス。悪事ヲナスモノモ、善ヲナスト思ハサレトモ、アルヘキ様ヲソムキテマケテ是ヲナス。此七字ヲ心ニカケテタモツハ、アエテアシキコトアルヘカラスト云々。文学上人、ツネニニアヒテ申サレケルハ、在世ノ舍利弗目連等、證果ノ聖者ナレハ、其徳ヨロツ申ニ及ハス。シカルニ心ノ佛法□オキテイサキヨクケタカクヤサシキコトハ、明惠房ノ心(46ウ)ハセニスキテハ、イカニヲハシマシケレトモ不覺ト云々。

四十七丁

達子(47才)

(47ウ)

貞治三年<sup>甲辰</sup>林鐘七旬<sup>善子之杜蘭</sup>

案ルニ貞治甲辰三年ヨリ寶曆丁丑七年迄凡三百九十四年也

智妙

宝曆七年秋八月

(裏表紙見返)

(付記) 貴重な資料の閲覧・複写・翻刻掲載をお許しくださった慶應大学三田メディアセンターに心より感謝申し上げます。

\* Bibliographical Introduction and Transcription of a manuscript of the first volume of *Togamoo Myōe syōnin Den*  
(Biography of Priest Myōe) in the collection of Keio University Library

\*\* Tae Hirano (Japanese Language and Literature)

キーワード 明恵 伝記